会 議 録

会議の名称	令和6年度第4回和泉市こどもまんなか会議
開催日時	令和7年3月11日(火)午後2時30分
開催場所	和泉市役所3階 3A・3B 会議室
出席者 (敬称略)	<p><こどもまんなか会議委員> 石田会長、安原副会長、大杉委員、橋本委員、内藤委員、岡委員、若林委員、田畑委員、佐藤委員、遠藤委員、大場委員、栗山委員、大橋委員</p> <p><事務局> 吉田副市長 子育て健康部:藤原部長 教育委員会:上田教育指導監 学校教育室:阪下室長 こども未来室:西角室長、樋上幼保育成担当課長、北野幼保運営担当課長、堀田幼保運営担当総括主幹、松井幼保運営担当総括主査 健康づくり推進室:村上参事 くらしサポート課:角井課長、藤原課長補佐、滝生活相談係長 子育て支援室:山本室長、小林こども支援担当課長、菅原こども支援担当総括主幹、鍛冶こども政策担当課長 寺本こども政策担当総括主幹、伊勢こども政策担当主査、岩井こども政策担当主任、田村こども政策担当主事 株式会社HRCコンサルティング:東野、桑山</p>
会議の議題	<p>案 件</p> <p>① (報告) 前回会議 (令和6年度第3回こどもまんなか会議) 当日の意見等について</p> <p>② (仮称) 和泉市こどもまんなか計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント結果について ・(素案)からの修正点について ・計画の名称について <p>③その他</p>
会議の要旨	<p>(1) 前回会議の当日の質問と回答について報告</p> <p>(2) (仮称) 和泉市こどもまんなか計画(案) について説明</p> <p>(3) 最終の修正等については会長一任</p>
会議録の	☐ 全文録

作成方法	■要点録
記録内容の確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他()
その他の必要事項	傍聴者なし

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
1. 開会 (事務局)	<p>本会議は「和泉市審議会等の設置及び運営に関する規則」に基づき、会議の透明性を確保するため原則公開で開催する。</p> <p>なお、本会議は定数18名、出席者数は13名で、和泉市こどもまんなか会議条例第8条第2項の規定により成立していることを報告する。</p>
2. 委員、職員の紹介	<p>事務局から委員等、出席者について説明。</p> <p>本会議は会議録作成のため録音し、会議録は公開する。</p> <p>【資料確認】について、事務局から説明。</p>
3. 案件	<p>以降は、会長にお願いします。</p>
(会長)	<p>本日は計画の取りまとめになっていくため、皆さんの忌憚のないご意見をお願いしたい。</p> <p>本日の会議の資料や会議録要点の公表については、和泉市公文書作成基準に基づき、会議録作成にあたり、本会議の個々の発言の要旨については委員名を表記し要点をまとめ、各委員に事務局より確認後、私に一任いただいてよいか。</p>
(委員)	<p>「異議なし」の声あり。</p>
(会長)	<p>また、本日の会議は「和泉市審議会等の設置及び運営に関する規則」に基づ</p>

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

き傍聴者の入室を認めているので申し添える。

案件①(報告) 前回会議 (R6第3回こどもまんなか会議)当日の意見等について

(会長)

それでは、案件①(報告) 前回会議 (R6第3回こどもまんなか会議) 当日の質問と回答について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

【資料2】に基づき、事務局から説明。

(会長)

委員それぞれの立場からの意見を求める。

【質問なし】

案件②(仮称) 和泉市こどもまんなか計画(案)について

(会長)

それでは、案件②(仮称) 和泉市こどもまんなか計画(案)について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

分量が多いため、3回に分けて審議いただきたい。

パブリックコメント結果について、【資料3】に基づき、事務局から説明。

(会長)

【資料3】について、委員それぞれの立場からの意見を求める。

【質問なし】

(事務局)

(素案)からの修正点について、【資料4】に基づき、事務局から説明。

(会長)

【資料4】について、委員それぞれの立場からの意見を求める。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

【質問なし】

(会長)

この間にいろいろワークショップ等も開催していただき、安原副会長には桃山学院大学でもご協力いただいた。安原副会長からワークショップについて何かあればお願いしたい。

(安原副会長)

SNSやスマホも駆使してこれからやってみたらいいというような、さすが若者だなという意見が出ており、私たち世代だとこんな意見は出ないだろうなと思った。つい最近までこども世代だったというところで、自分たちは何がやりたかったか、こういうことがあったら便利だったのにと、みんなの昔のことを思い出しながら、自由に意見が出てすごくよかったと思う。

(会長)

私から質問で、89 ページ。先ほどアウトカムとかロジックモデルとかのカタカナがわかりづらいから言い換えると言われていたが、ここではいくつかアウトプットなど残っているのはそれでいいのか。インプットとか、括弧でその前の説明があるのでいいのかなと思うが、他でアウトカムとか使っていないのであれば、ここであえて使う必要があるのかどうかという意見。

(事務局)

括弧内に日本語表記と併記していたもので、この部分については、このままでも意味が通じるかと思いついたという経緯がある。ただ不徹底ということであれば、修正させていただこうと思う。

(会長)

絶対直してほしいと言ってるわけではないが、方針としてしっかりチェックされてのものなのかどうかという確認。また検討いただければと思う。

先ほど事務局から3つに分けて説明するというので、2つ目まで説明していただいた。全部説明していただいた後に、また皆さまからご意見をいただきたい。

(事務局)

第6章と最終に追加されている資料編の説明

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

(会長)

事務局に参考資料についても説明していただきたい。

(事務局)

参考資料については、概要版とやさしい版2種類を添付させていただいている。こちらは、パブリックコメントを実施する際に、計画書の素案の分量が多かったため、素早くわかるものということで、まず概要版を作成した。こちらについては、計画書素案の主なポイントをかいつまんでまとめた資料となっている。

やさしい版については、こどもの皆さんにも理解いただける資料ということで、計画書の1章1章をなぞってつくったわけではないが、この計画をどのような思いでつくったかというのが伝わるように要点をまとめた。小学校6年生以降を想定して作成したつもり。

こちらの参考資料については、素案をもとに作成したものである。今回この会議でご意見いただいて修正の上、成案ができた折には、こちらも修正した上で周知啓発に使用できればと考えている。

(会長)

最初のほうの説明に戻っていただいても構わないので、全体について何かご質問、ご意見等あればよろしくお願ひしたい。

(安原副会長)

参考資料のやさしい版が小6以降ということだが、小5以下のこどもたち用にはつくらないのだろうか。

(事務局)

それは検討させていただきたい。内容的に他市の例などを参考につくっていったが、かなり若い方用のものというのが見当たらなかったため、とりあえずパブリックコメントの段階で作成させていただいた。委員のおっしゃる趣旨もわかるので、研究させていただきたいと思う。

(安原副会長)

最終版をつくって周知するみたいなことを言われていたので、小学校1年生、2年生ぐらいのこどもさんでも、重要な部分はわかるような、そういうもの

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

をつくっていただけたらなと思う。

(会長)

私から感想になるが、今回この計画をつくるにあたって、こどもの意見を聞いたというのは非常に大きなことだと思う。安原副会長が言われた通り、やさしい版のこどもたち向けのもので、小さい子どもにもどう伝えていくかという課題として残る部分はあるかと思うが、こどもの意見をしっかりと聞いていこうというような姿勢でつくったところは、大きな一歩と思っている。143 ページに今回付け加えていただいた「計画の進行管理においても、こどもの意見を聴取し適切に反映するよう取り組みます」というところが非常に大事で、5年に1回これをつくって、その時だけ意見を聞くということではなく、進捗を進めていきながら、こちらが想定してつくるものであっても、こどもたち側から見るとどうなのかというようなところは大事だと思う。それにどうアクセスしていけるか。紙で置いててもこどもたちはわざわざ役所に取りに来ないと思われる。今の SNS の時代にホームページまでたどり着く若者がどれだけいるだろうかと思う。私の感覚からしても、大学生は SNS の情報が非常に多いと思っている。この計画に限らず、子どもに発信していく、あるいは最近だと子育て世帯もホームページで載せるというよりは、何かアプリ的なものを使いながらというのも、進捗を今後していくにあたって考えていただければと思う。

進捗管理という点でお聞きしたい。年1回ぐらい進捗管理していく中で、146 ページからの表の進捗を中心に確認しながら、数字で表れてこない部分もあるので、その辺について各委員から意見を聞いていくというような形で進めていくのか。そのあたりについて間違っていたら訂正、補足の説明があればお願いしたい。

(事務局)

会長のご発言通り、そういう形での進捗管理を考えている。資料編に掲載させていただいた行動計画に関しては、比較的、本編であげた基本施策に近い事業で、かつ数字でできるだけ指標が得られるものを中心にあげている。

こどもに関連する事業というところでは、かなり遠いものも含めれば、161 ぐらいあがってくるが、それをすべて見ることは効率的ではないので、ここに行動計画という形で、進捗管理に用いる事業をリストアップさせていただいている。こどもまんなか会議では、こちらを中心に管理をしていけたらと考えている。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

(会長)

他に何かご意見、ご質問等はないか。

(安原副会長)

こどもまんなか計画自体は、今後現状を踏まえて数字はもしかしたら変わるかもしれないというのは十分わかっている。本当にこの通り進めばいいなと思う。うちの卒業生が担任をしている和泉市の小学校で、総合学習が何かの時間にこどもの権利を少しずつでも勉強させたいというのがあり、4回シリーズで行った。「こどもの権利」という言葉を知って、次に自分がうれしいときはどんなときか、悲しいときはどんなときか、自分の気持ちについて2回目に行った。3回目にその気持ちをどれでもいいから1つ選び、その気持ちにぴったりの本を探そうと図書館を利用し、司書の人もすごく協力してくれて、絵本でも何でもいいから探そうということを行った。4回目はまとめという形で、もう一度こどもの権利を見直そうと一緒に考えて、なぜその本を選んだのか発表した。わいわい楽しそうにやっていたが、やはりしゃべられない子がいる。学生が「しゃべらないことも尊重しないといけない」と言っていた。どうしても意見を聞こうとか、ちゃんと意見を聞き取らないといけないということで、「何でもいいから言って」と強制されるような場になってしまうので、意見を表明しないのもこどもの権利だということをちゃんと保障してあげてほしいと、学校の先生には言っていた。そのうちに、「言っても言わなくても自分はちゃんと大切にされているんだ」ということを経験することで、しゃべることもまた増えてくると思う。そういうのを待つしかないという話をしていて、何が言いたいかという、何でもかんでも意見を聞かないといけないということではなくて、意見を言わないことも別にいいんだということ。そういう環境づくりがすごく大事ということと、こどもを尊重するということは、結局尊重する大人も尊重されていないと難しくなる。それを考えたときに和泉市でどういうふうにご家庭が暮らしているかというところはすごく大事で、保護者の方も安心して自分が尊重された環境の中で暮らしていないと、こどもが講演会や研修で知識として聞いても「そんなこと言ってもらえないし」みたいになってしまうのかなと思う。

こどもまんなか計画の中にも困っている保護者の窓口はたくさん書かれていると思うが、普通の暮らしをするためにそういう部署があると思うので、生活をサポートできるとか、学校の先生は学校の先生で忙しすぎて余裕がないとなると、こどもにゆっくり対面できないということになってしまう。そうなると学校の先生の働き方改革も関係してくると思う。そういうところともリンク

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

しているということを最初の方針とか、どこかで総括するときに入れてもらえたらと思う。和泉市でやっていることすべてが実はかかわっているという、「和泉市ってこれだけ考えてくれているんだな」ということがわかっていいと思う。

(会長)

ありがとうございます。今日が最後の取りまとめの会議になるので、皆さん方からこの計画に関わっての感想あるいは計画自体のご意見、あるいは今後への要望など、せっかく集まっていますし、これだけの行政側の人たちも出席していただいているので、一言ずつでも話して帰ってもらったらいいいのかなと思う。

(佐藤委員)

大橋先生にお聞きしたい。毎朝、小学校の前で見守りをしていると、2年生くらいの信中の女の子だが、きちんと服も着て通学しているけど、一人で黙々と歩いている。私が「おはよう」と声をかけても、じっと前を向いて黙々と歩いている。大人だったら2回声をかけて返事がなかったら3度目は絶対あいさつしないが、女の子だし、気にかけてくれているというのは大事かなと思い、今朝も声はかけているが、ああいう子は学校に行ったらどうしているのか。自分の席に座って、じっと教科書を読んだり、話しかけてくる友だちはいるのか。今度卒業式があるので、あの子も卒業するのかなと思ったりして、関心ありながら卒業式に臨まないといけないなと思っている。普通の真面目な子だが、ああいう子は学校行ったらどうしているのだろうか。学校に行ったらそれはそれで、友だちと意気投合したりして話し合ったり仲良くなったりするのだろうか。

(大橋委員)

思春期ということもあり、以前になるが、和泉市はAETと通称言われる外国語指導助手の先生がいて、その先生が「寂しくなった」と言うから聞くと、小学6年生で教えていた子が、4月になって中学校で会ってあいさつしたら、大人の振りというか、どちらかという親しみがなくなったような感じがして寂しくなったということだった。一つは緊張しているのか、大人とあいさつする機会も少ないからかもしれない。家を出る前に親と喧嘩をして機嫌が悪くなって来たのかもわからないし、受験とかそういうことが心配なのかもわからない。和泉市とあいさつ運動をしていて、やはり習慣というところがある。何かというと、回数がまだ足りない可能性もある。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

(佐藤委員)

2回あいさつして返事がなかったというのは、近所のおとなに対して。こちらが「おはようございます」と近所のおとなにあいさつしてるのに、横向いたり聞こえてるのに全然返してこない人がいるので、そういうおとなには、私は3回目には声はかけないが、こどもたちに関してはずっとあいさつを続けている。

(大橋委員)

こどももつけんどんにしていたとしても、心の底では自分に声をかけてくれているとわかっているのだから、自分たちもそうだが、いつかしら花が咲くという気持ちで根気よく。

(佐藤委員)

一度笑った顔が見てみたい。いつも真剣な顔をして、前をじっと一点見つめて黙々と歩いているだけなので、笑った顔を見たことがない。

(大橋委員)

また信太中学校に言うておく。

(会長)

他の方はどうか。

(大橋委員)

先ほど安原先生がおっしゃっていた、生活の全てのことに絡んでくるというところで、僕も聞かせていただいたり、目を通させていただいた。その中で学校が担う役割はとても大きいと思う。ただ教員もたくさんいて、そこにどれだけ私たちが、少なくとも私が受け取った熱を教員に伝えられるかどうか、どうしていけばいいのかという方法論と、環境を考えるとところがある。教育委員会でそういう機会を持たれるのかどうか、聞きたいと思うのでお願いしたい。

(事務局)

まず1つお伝えしたいのが、資料⑥の159ページのスライドに、和泉市の中学校生徒会交流会のフィードバックというのを載せていただいている。年頭に校長会議というのが、1月に毎年開かれる。そこで私から、中学生徒会のこどもたちが発表した意見を、小中学校の校長先生にお伝えした。例えば中学校

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

では、北池田中学校に通っている子が、光明台中学校に留学制度を設けたらどうかとか、貧困家庭の支援策としてもっと補助金を出してほしいとか、ルールメイクの話などのプレゼンをしてくれた。それを紹介したら、小学校の校長が「自分の校区の中学校でこんなことをしているのだから、小学校でももっとやっていきたい」という動きも出ている。

今日、ある小学校から市役所の窓口にメールが届いた。自分たちがしたいこと、例えば掃除をする機会を設けたい、和泉市のイチゴジャムを使ってこんなふうにしたいというような動きが出てきている。私がこの会議に参加させていただく中で、このこども計画を次の4月8日の校園長会議でしっかり紹介した上で、安原先生がおっしゃられたように、そういう取り組みが広がっていけば、学校も我が事になる。こどもたちも、小学校6年生以上というような発言もあったが、これが自分たちにとってどんな計画になるのか、自分事になるような進め方がされたらと思っている。

2、3週間前に和泉市の教育センターで、横浜創英の先生の講演を3市1町で受けた。私立のいわゆるできる子がたくさんいる学校だが、そこでプレゼン大会をしたら、プログラミングでパソコンだけ置いていた子が準優勝か何かした。その子の特徴としては、企業の人たちが「どうやってつくったのかあの子から聞きたい」というくらいすごいプログラミングをするが、実は走り回っていて落ち着かない。でもその子たちも活躍する場面がある。そんな誰一人取り残さない教育を和泉市でもやっていきたいという話があった。今日のこの話をどれだけ我々が、我が事としてやっていっているか、大事にしたいと思っている。

(会長)

ありがとうございます。その他はどうか。先ほどマイクを回していこうとしたが、意見を言わないという意思も大切なのではないかと思ったので、マイクを回していくのはやめようと思う。意見がある人は、積極的に話していったほうがいいと思う。

(橋本委員)

140 ページから 144 ページまで「計画の推進体制・進行管理」ということで、143ページに「本計画では、こども自身へのアンケート調査による結果をこども施策の評価指標としているものもあり、計画の進行管理においても、こどもの意見を聴取し適切に反映するよう取り組みます」と記載していただいている。それを踏まえた上で、146 ページ以降の評価指標に基づいて、こどもの

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

意見を聴取していく。この意見を聴取する担当課が、どうしてもいわゆる市役所内の担当課だと思うが、市ではないこどもにかかわる団体とか、そういったところにもアプローチしていけたら、より新たな視点という部分では、こどもの意見をしっかり聴取できるのではと思った。

150ページの「障がい児の健やかな成長のための発達支援」というところで、施策4-①の令和6年度から令和10年度までの就学支援児数というので、211人から200、200、200となっている。保育施設を運営しているが、特別支援児童といったお子さんは、増加傾向にあるという思いがある。指標なので数字としては減らしていかないといけないのかと思いつつ、ただ体制として障がいをお持ちのお子さんでも日常生活に満足しているというところなので、そういった支援体制がしっかりできているところであれば、あえてここを無理に減らしていく形でなくてもいいと思った。

(会長)

ありがとうございます。何か事務局からコメントがあればお願いしたい。

(事務局)

こどもの意見の反映に関して、委員のご意見は大変貴重なご指摘だと思う。つい見落としがちなところで、どうしても役所でどうするかという発想になりがちなのがあるので、ご提案のあったような、民間とのコラボレーションがどういう形でできるかというのは、手法の検討の中に織り込みさせていただきたいと思う。

(事務局)

あと就学支援児数のことだが、こちらは健康づくり推進室が毎年度就学に向けて、年長のときに実際に学校見学を一緒にしたり、お母さんと一緒に相談して進路を決めていたり、お母さん同士のいろいろな交流会に来ていただいたりということで、実際支援をしている人数になる。なので、大体200人ぐらいということではさせてもらっている。

(会長)

ありがとうございます。他いかがだろうか。

(若林委員)

資料3のパブリックコメントを全部読ませていただいた。たくさんのお本音の

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

コメントが寄せられていて、それを市の考え方できちんと回答されているなど思った。その中で質問したいことがある。5ページのNo.20で「令和14年度供用開始予定の(仮称)多世代交流拠点施設」というのが計画されていると書かれているが、具体的にどんなものなのかお聞きしたい。

(会長)

事務局にお願いしたい。

(事務局)

今日は所管の担当が来ていないので、詳しいことはご説明できないが、和泉市の富秋中学校区の中に、人権文化センターや青少年センターみたいにくつつか施設がある。これは今、まちづくりの一環で、市営住宅を含め建て替えを市で計画しており、その建て替え後にそういった施設をいくつか集約して、新しい施設をつくる。その施設の機能の中で、子どもが交流できたり、多様な世代が集まって交流できるような施設の機能を持たせようとしている計画。計画が固まったら、またホームページ等で公開されると思う。

(若林委員)

それは和泉市で1か所だけということか。

(事務局)

今のところ、ここに書いている多世代交流施設というのは和泉市で1か所。

(若林委員)

ありがとうございます。それと、子どもを抱えているお母さん方で、もっとこういう支援をしてほしいというのがいろいろ書かれていたと思う。市の回答としては、こういうのがありますということがきちんとされているが、それが周知されていない現状がある。今もおっしゃっておられるように、発信の方法。ここに啓発していきますと書かれているが、どんな啓発の方法が周知されるのか、非常に課題だと思っている。ちゃんと窓口はある。でも皆知らないとそこに行きつけない。ホームページも見られない、見る人が少ないとなると、口コミというか、言い伝えみたいなネットワークができていると、伝わりやすいのではないか。まちの中でお互いホットな関係というか、学校現場でも保育所でも団体の中でもそうだと思うが、それがうまくコミュニティになっていくと、自分でリサーチしなくても、何とか耳に入ってきて伝わっていくということにな

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

と思うが、そこが非常に難しいと感じる。

(会長)

ありがとうございます。

(田畑委員)

先ほどのコミュニティのところで、その中の1つで民生委員というのがあ
る。皆さんの相談事、高齢問題あるいは貧困だとCSWにつなぐなど、いろい
ろタイアップしているのが民生委員の役目。ところが民生委員という名前はご
存じの方が多いが、何をしているか知らないというのはい多い。我々民生委員で
も、もっと知ってもらうにはどうしたらいいのかといろいろやっているが、最
近では、なり手不足。それが第1の問題になった。その中でもあまり知られて
いないところがあるので、我々も民生委員でこういうのがあるから、何か市に
相談事があったらしてくださいとアピールはしているが、広がっていないとい
うのが実情で、どうしていこうかというのは課題になっている。

(会長)

ありがとうございます。他いかがだろうか。

(内藤委員)

安原先生がおっしゃられた、意見を言わない人の尊重というのは、改めてだ
が大切だと本当に感じている。その観点とは違うが、こどもの中にコミュニ
ティが当然あって、その中でも1人だけが違うところにいるケースがよくあると
思う。大人の目線からすると、その子は1人で寂しそうと思いがちだが、実は
その子にはその子の世界観があって、大人が想像できない世界を楽しんでい
るというケースも多々あるかと思う。一緒にこっち来て遊ぼうという、最終的
にそういう持っていき方は1つだと思うが、いきなり最初からするのは違う
と思う。就学後となると私はわからないが、ただ私も就学後を経験している
ところから言うと、基本的には一緒と思っている。もし1人だけにいる子がいた
ら、その子はその子で、様々な経緯があってそういう状況になっているといっ
たら、現状で想像できるが、もしかしたらその子はその子で、1人の時間を自
分の考えを持ってやっている。何が言いたいかというと、それを見て、「あ
いつ1人でかわいそう。関わっていこうというコミュニティができればいいが、
何か違うような、基準が知らず知らずのうちに、年を重ねるごとにできてい
てしまっていることを変えないといけないとすごく思っている。決してかわい

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

そうとかそんなものではなく、今現時点はそこをとればかわいそうという捉え方にならざるを得ないかもしれないが、そうなるとう就学前からそういう認識をつくっていくことが、10年20年かかる話かもしれないけれど、本当の意味での尊重。いろんな過ごし方の尊重というか、生き方の尊重というか、そこにつながるような気がしている。

あともう1つ、計画案の150ページ。施策4の③に「その他配慮が必要なこどもへの支援」で、外国籍のこどもへの支援ということで、計画に指標の数値が入っている。実際は外国籍のこどもがどんどん増えていって、しっかり大切に対応していかないといけないと思っている。ただ言葉のことや、食事のこと、給食も影響する。様々な置かれる状況によって食べ物の制限や、うちの小学校以外でも同じような対応をされているケースがあるかもしれない。まず言葉でいくと、市のほうで通訳的な対応とか、我々でいろんな国の言葉がしゃべれたらいいが、これについては無理だし、様々な国があるので英語はもちろんだとしても、様々な国の子が今回の事業計画の最終年度の11年頃になると、さらに外国籍のこどもの割合が増えると思う。今から対応を検討いただければと思う。

(会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

私から1点、89ページ。先ほど私はこの計画でこどもの声を聞くことは大きな一歩だったという話をしたが、もう1つ、今回和泉市の計画を見ていたときに、今は名前が変わったが、こどもまんなかの和泉市実現マップやロジックモデル、インプット・アウトプットなど、成果指標をつくる部分にかなり力を入れられたと思って見ていた。それは今の社会の流れでもそういうふうになってきているし、非常にいいことだと思っている。

一方で、数値で表す目標ばかり見てしまうと、見えてこない部分が出てくるのではないかと思うので、数値はあくまで結果で、そのプロセスで何をしていくのか、数値にこだわりすぎると問題が出てくると思った。当然そういうことはわかっておられるとは思いますが、一応発言はさせていただきます。

案件③その他

(会長)

それでは、取りまとめになっていくわけだが、今日いろいろと皆さんから意見を出してもらった中で、今後どう進めていくのかについて、案件でいえばその他の部分になると思うが、事務局から説明をお願いしたい。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

(事務局)

本日いただいたご意見をもとに、今日提出した計画案にさらに修正を行い、こどもまんなか会議から市長へ答申することとなる。計画案の取り扱いについて、ここでお決めいただきたい。修正だが、会長と事務局で内容を調整させていただくという形をお願いしてよろしいか。その点をご審議いただきたい。

(会長)

ありがとうございます。

ただいま事務局から説明があった。今日皆さんのご意見を聞いて、この計画案自体が大きく変わることはないとは思いますが、微修正等が出てくることも考えられる。その際に、皆さんに意見を聞いて集めてということは、今3月11日なので難しいと思う。この辺りは最終の調整は私会長に一任していただいてもよろしいか。

(委員一同)

【異議なし】

(会長)

ありがとうございます。それでは修正の上、答申に関しては会長の私と、事務局で調整させていただく。

それでは、委員の皆さんには議事への進行ご協力、またこれだけのボリュームのある計画を作成するにあたって、貴重なご意見をたくさんいただいた。どうもありがとうございました。

それでは本日の案件はこれで終了となるので、事務局にお返しさせていただく。

(事務局)

石田会長、議事進行ありがとうございました。

最後に、吉田副市長からごあいさつ申し上げます。

(吉田副市長)

皆さま、本日も慎重なご審議、誠にありがとうございました。そして今日、皆

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

さんとの議論が終結するわけだが、この計画の策定に長きにわたり関わっていただいて心から御礼を申し上げます。

本日の最後に市長になりかわり、私から今日の総括も含めて、御礼のごあいさつをさせていただきます。

先ほど会長のお話のように、この計画案を会長のチェックを経て市長が受け取るが、この市長において和泉市、そして和泉市民の決定にするというプロセスを、年度末へ向けて踏んでいくことになる。最終決定者である市長が、今日は公務の関係で出席していないので、それになりかわり、私から総括をさせていただきたい。

まず、桃山学院大学からのご協力もあり、この会議の委員の皆さまのみならず、パブリックコメントも多数寄せられた。先日、和泉市幸福度満足度調査というものを行い、そこでは例えばだが、人々の居場所についても、住民の意見を聞いており、その分析の途中である。

ダイバーシティ&インクルージョンの世の中になると、行政案をつくる前の段階で、どれだけの多くの声、そして多様な声に耳を傾けるか、どれだけ多様な多くの人々の英知を集めるかがより重要になってくる。これまでの計画のつくり方では、時代遅れになる可能性があるということから、今回からできるだけ、計画をつくる前に、皆さま方のご意見を聞くということに努めたが、それでもこの計画案ができた後に、これだけの意見が寄せられるということになると、まだこの計画のつくり方を改善していかなければならないと考えた。

それに関連して、2つ目だが、先ほどからご説明をしているように、この計画について、毎年PDCAサイクルを回していくことをご決定いただいた。先ほど申したような、多くの意見、あるいは英知を今日この時点では十分に受けとめられていない。これはうれしい悲鳴といってもいいと思う。当たり障りがないような答えを書くなど、アップアップしている部分もあるが、決してアップアップすることなく、これは皆さま方から多くの意見が寄せられたというのはいいいことであるため、スケジュール感をもって、ひとつひとつのお声に今後対応していくという懐の深い、行政の受けとめ方をしていきたいと考えている。

例えば、啓発もブラッシュアップしていかなければならないというご意見もいただいたが、先日、和泉市ウェルビーイング推進ビジョンというものを決定した。その中の1項目に戦略的広報というのを挙げている。必要な方へ向けて、必要な情報を投げていくという広報のあり方がこれから必要になるのではないか。すべての人々が同じように見るという発想ではなくて、必要ニーズは散在していることから、的確に情報を提供していく啓発をしていくという基本方針をビジョンで掲げたが、先進的な分野のため、方法論がまだ見つけるこ

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

とができていない。そこで来年度1年間、税金も使わせていただいて、戦略的な方法について調査研究をして、8年度から本格的に戦略的な広報をやっていくと、そういう計画をつくった。これが1つの例だが、皆さま方からお寄せいただいた、ひとつひとつの意見について、今日これで終わりということではなくて、これを糧に、これからどんどん行政をよくしていきたいというふうに考えている。

次に、145ページ以降に何度もご指摘いただきましたが、施策的インプットの観点からの進捗管理の表が出てくる。この進捗管理は当然やっていくが、ここに十分に表現できなかつたこともたくさんあり、それは内藤先生などからもご指摘いただいた。外国人の方々をどうするんだ、あるいはここに対象として扱われなかつた方々をどうするのかというようなことも含めて、十分表現できなかつたことがある。そうしたことにも今後目を向けて、今は入っていないが、この計画の中に入れ込んでいくという発想も必要で、それも進捗管理の1つのあり方かというふうに考えている。

盛り込まれていない、あるいは盛り込みをもっと強くしていかなければならないこと、2つだけいつも市長が申し上げていることを踏まえて述べたいと思う。

1つは、今日委員の皆さま方からもご指摘があつたように、どんな行政の施策、あるいは地域の対応も、自助と公助と共助の連携で成り立っている。公助だけでできるような施策はない。自助だけでできる自立対応もない。最初の1ページには地域とともにということも記載している。自助、共助、自助共助を支える公助、そして今日多くのご意見いただきました、それぞれの主役であるこどもの役割といったものを、その計画に入れ込んでいくというシフトは不可欠ではないかと考えている。それも大きな意味での進捗管理に加えていかなければならないと思っている。

今日は佐藤会長がお見えだが、社協と一緒になつてつくつた、地域福祉基本活動計画はこういうつくりになっている。和泉市がやること、もちろん部署も書いてあるが、市社協としてやるべきこと、そして地域の社協としてやるべきこと、保護司会がやるべきこと、挙げたらきりがなが、様々な活動主体が主役である計画になっている。地域福祉計画も不十分だが、そういう書きっぷりになっているので、そうしたものを参考に、今日いただいた計画もブラッシュアップしていきたいと思っている。

もう1つは、ウェルビーイングのまちをめざすという基本方針を、和泉市としてはこの度掲げた。ウェルビーイング推進ビジョン、あるいは健康食育の基本計画ももうじき決定をするが、ここに和泉市はウェルビーイングのまちをめ

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

ざすということを明記している。つまり、これからの福祉は、旧来の価値観で言うところの、マイナス1をゼロにするということだけではなくて、ゼロの人を1にしていく、1の人を2にしていくということも含まれると考えている。

内藤先生がおっしゃったような、1とか2という、単一の方向性ではなくて、もしかしたら価値観の転換も、ウェルビーイングのまちをめざすには視野に入ってくるというふうに思っている。すべての若者、すべてのこども、そしてすべての住民が主役のこども計画へとシフトさせていく必要があって、そのシフトの進捗管理というのが必要だと思う。会長がおっしゃったように、マネジメントの世界では、アウトカムの重視という時代が古くなっており、プロセス評価という、プロセスを見ていくことが主流になっている。ウェルビーイングというのはまさにプロセスのことなので、そういう価値観の転換も視野に入れて、この計画をどんどん良いものに変えていきたいと思っている。

最後に、今日の計画を皆さま方にお認めいただいたわけだが、現時点でのこの計画に対するご承認ということであって、今後、皆さま方から改めていただく議論も入れ込んでいく。今日、対応できなかったパブコメを含め、多くのご意見も今後入れ込んでいくんだということも含めて、本日は皆さま方に承認をしていただいたというふうに受けとめている。

これからも緊張感をもって、この計画の施策と運用に努めていくので、引き続き、皆さま方のご支援とご指導を賜りたく、最後にお願いを申し上げて、私からの御礼のごあいさつとさせていただきます。本日も誠にありがとうございました。

(事務局)

それでは、これをもちまして、令和6年度第4回和泉市こどもまんなか会議を終了させていただく。ありがとうございました。